

2章 章末 問題5 (p.56)

A, B を n 次正交行列とするとき、
 $\text{rank}A + \text{rank}B - n \leq \text{rank}AB$ を示せ。

rank は 難しい概念。セ変化。

o まず rank の定義を

たぐせん定義があるけど、
行基本変形をして簡約階段行列にして、
生き残った列の数 ←
(↑ 定義はこれ)

これ外一意になる
証明したなあ。

o $\text{rank}AB \leq \min\{\text{rank}A, \text{rank}B\}$

示すものは

$$\text{rank}A - n + \text{rank}B - n \leq \text{rank}AB - n$$

$$\Leftrightarrow \underbrace{n - \text{rank}A + n - \text{rank}B}_{\text{null}A \text{に}} \geq n - \text{rank}AB$$

相当するもの

o A にかける基本行列は可逆行列

A のかわりに PAQ P, Q 可逆

B " $Q^{-1}BR$ Q, R 可逆

↓
AB " $PABR$

なんかよくわからん
線形写像を
導入すると、
ころいろの A あせり

• Q は決まっちゃうから P, R は fix ?

(p.56) 問3からわかるない。 → 小行列の話？

問3 (1) $\text{rank } A \leq 1$

$$\begin{pmatrix} 0 & \# \\ a & b \\ c & d \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} a & b \\ 0 & * \end{pmatrix}$$

$$d - b \cdot \frac{c}{a} = 0$$

$$ad - bc = 0$$

↓

$$\text{rank } 1 \Rightarrow \begin{pmatrix} a & b \\ \lambda a & \lambda b \end{pmatrix}$$

3次以上は？

$$\begin{pmatrix} a & b & c & d & \dots \\ \lambda a & \lambda b & \lambda c & \lambda d \\ \mu a & \mu b & \mu c & \mu d \\ \vdots \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ \lambda \\ \mu \\ \vdots \end{pmatrix} (a \ b \ c \ d \dots)$$

$$= \begin{pmatrix} a & b & c & d \\ \lambda a & \lambda b & \lambda c \\ \mu a & \mu b & \mu c \dots \\ \vdots \end{pmatrix}$$

$$E_{ij}(c) = \sum \varepsilon(\sigma) e_{i\sigma(s)} \quad i?$$

行列式の定義に従って計算すると、0でない項は
 $s(\neq i)$ 行からは

対角成分の $e_{ss} = 1$ 以外はすべて0。

ゆえに、 $j \neq i$ なので、 j 列からはすでに $e_{jj} = 1$ をとってきているので、

i 行も対角成分 $e_{ii} = 1$ のみ。

四則演算や、行列が同じということ以外使っていない。

- ケリー: ハミルトンが3次, 4次, ... で成り立つことを示す。

$$A = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} \Rightarrow A^2 - (a+d)A + (ad-bc)E = 0$$

- 線形写像
変換 $f: V \rightarrow V$ $v \rightarrow f(v) = \lambda v$ に偶然なったら
↑
スカラー 数値 ← 実験による値

実験は数値で返ってくる

数値をとる方法? → 固有値 - 固有ベクトル